

提携ニュース2002

豊中・サンマテオ 姉妹都市

Sister City Affiliation Toyonaka-San Mateo

San Mateo City
<http://www.cityofsanmateo.org/>

Toyonaka City
<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/>



THE 30TH ANNUAL ENGLISH SPEECH CONTEST

第30回高校生英語弁論大会



賞	氏名	学校名
豊中市長賞	岡 由佳さん	豊中高等学校1年
サンマテオ市長賞	塚田 由紀さん	大阪教育大学 付属高校池田校舎1年

2002年1月26日、当協会主催の第30回高校生英語弁論大会をとよなか国際交流センターのイベントホールで開催しました。今年は、昨年9月のアメリカを襲ったテロ事件の影響で、親善使節の派遣を中止したためか、参加者は3校4名にとどまりましたが、出場者の皆さんは、一所懸命に自分のテーマを発表されました。

豊中市長賞の岡 由佳さんは「私は世の中のために何ができるか?」という演題で、ヘンリーランドワーズが創設した「Give Kid The World」(「子どもに世界を」)の話に感銘を受けたのがきっかけで、医者になって発展途上国で活躍したい、また患者に希望と生きる力を与えることができる医者になりたいという夢を、ネパールの病院を訪問した自らの体験を交えて語りました。

サンマテオ市長賞の塚田 由紀さんは「幸せの伝え方」という演題で、フィリピンで他人を思いやる国民性に感銘を受け、英語を学ぶことが国際化ではなく、他人に幸せの伝達ができる国が本当に国際化された国であるとアピールしました。

審査員は金蘭短期大学教授のジュディー・ガーナントさん、元金蘭短期大学教授のデヴィッド・ボールドウィンさん、大阪女学院短期大学教授のウィリアム・クラインさん、豊中・サンマテオ姉妹都市協会理事の川合隆子さんの4人をお願いしました。

今大会は出場者が少なかったこともあり、特別企画として出場者と審査員の先生方を交えて、大会の講評を含めた懇談会を開きました。

審査員の先生から英語で話しかけられてびっくりした人もいましたが、和やかな雰囲気の中で行われました。参加者の皆さんは英語の学習の問題点や将来のことなど、さまざまな質問をされ、日ごろから熱心に英語力の向上に努力し、将来にわたって英語を学習していこうと努力をしておられることが感じられました。

現在、国際化の進展が著しく、日常生活の中でも異文化に接する機会が増えつつあります。外国語を学ぶことは、その国の文化を学ぶことにつながります。また、多様な文化や価値観を認め合うことを学び、精神的な豊かさを育てる点でも、大きな意義があるといえるでしょう。

受験勉強など、学業との両立も大変かもしれませんが、今後も皆様方が、語学を通じて世界を理解し、国際化社会に対応できる人材に育てていただくことを期待しています。



豊中市長賞 岡 由佳さん(左側)と
サンマテオ市長賞 塚田 由紀さん



大会終了後の懇談会にて

お知らせ

2001年9月11日にアメリカ合衆国で発生した連続テロ事件の影響により、2002年1月26日に実施した「第30回英語弁論大会」の豊中市長賞、サンマテオ市長賞受賞者のサンマテオ市への派遣は中止することになりました。30回目の節目の年にして中止せざるを得なかったことは本当に残念なことでしたが、突発的な国際情勢の変化のため、派遣される高校生の安全を考慮した上での、苦渋の決断だったことをご理解いただきたいと思います。

さて、中止による今年の出場者数の落ち込みを見ますと、いまさらながら、高校生にとって、サンマテオ市へ親善使節として派遣されることへの期待の大きさを知らされることになりました。来年はぜひとも派遣を再開したいと考えておりますので、今年出場された皆様も含めて、親善使節をめざして、多数参加していただくことを願っています。



親善使節 サンマテオ訪問記



2001年8月13日から21日まで9日間、当協会主催の「第29回高校生英語弁論大会」の豊中市長賞受賞者の畑井梨沙子さん、サンマテオ市長賞受賞者の阪下清乃さんの2人は、親善使節としてサンマテオ市を訪問してられました。今回は少年野球チームと同時訪問でしたが、サンマテオ市でのホームステイや多くの人との交流から得たすばらしい経験を報告していただきました。

「アメリカ」畑井 梨沙子さん

01年夏、期待に胸膨らませ9日間のアメリカ旅行へと旅立った。今回は4年毎に派遣される少年野球チームの訪問団に同行ということで、ロス観光やディズニーランド、ドジャーススタジアムの見学など豪華な旅であったことを感謝している。私が目にし、肌で感じたものの一つ一つがアメリカならではの大国感を感じさせ、今でも強烈に脳裏に焼きついている。またこの旅は「人間の生き方」についても考えさせられた有意義なものとなった。

少年野球の試合を観戦している時、私は同じく観戦に来ていたダーレンという黒人男性と話す機会があった。彼は「I AM A MAN」とプリントされたシャツを着ており、これは黒人社会のスローガンなのだと話していた。彼自身はまだ高校生であったが、彼が身を置く黒人社会では仕事は白人の嫌がるゴミ処理や清掃というものしかなく、しかもその賃金が時給54セントという恵まれない待遇の時期があったのだと話してくれた。そのときから彼らはずっと「I AM A MAN」を主張しつづけ、それを彼らのスローガンとしてきたのだと。現代アメリカ社会は昔とは違う。サンマテオ市役所にて(左=阪下さん 右=畑井さん)

も評価され認められる。この現代になお、暗い過去を意味するその言葉を身につけているのは何故かという問いに、彼は笑顔で答えた。「それは僕の歴史だからさ。僕は黒人であることに誇りを持っているんだ。」辛く苦しく恵まれなかった時代——忘れて、消してしまいたい様な過去もすっかり受け止めて認めなければ自分を誇ることはできない。彼はそう言っていたのだろうか。恵まれた時代のアメリカに生き、次代のアメリカを担う黒人青年のこうした生の声に、私は少なからぬ衝撃を受けた。

一方、同じく野球観戦の場では、野球少年達のホストマザーどうしの会話が耳に入ってきた。「うちの子はシャワーが苦手な怖いみたいなの。頭なんかちゃんと洗ってるのかしら・・・。」「うちの子は恥ずかしがって洗濯物を出さないの。悪いと思ったけど、トランクから出して洗っちゃったわ。」このママたちと直接言葉を交わしたわけではな



Council Chambers

ったが、こうした話を聞いて心暖まるものを感じた。野球少年を家庭に受け入れるのはわずか一週間のことだが、どのママにとってもその子は「うちの子」なのだ。そして私自身もホームステイという形で暖かい交流をしていただいた。滞在中、ママは私の好みや自主性を尊重し、一人の大人として扱ってくれた。細かいことを言ったり世話を焼きすぎたりはせず、少し距離を保ちながら見守ってくれている。「大人のママ」という感じだった。私は帰国後、メールをやり取りしているが、「この頃どう？ 元気なの？」「来たくなったらいつでもいらっしやいよ。From Mama」と記されて送られてくるメールを読む度、私もママにとって「うちの子」なのだ改めて幸福を実感させられている。

さて、滞米中には市役所訪問や日本庭園35周年記念式典など公の行事があった。私は阪下さんと相談し、そうした行事には浴衣で出席した。親善大使として行ったのだから、日本の伝統文化を紹介したいと思ったのだ。どこへ行っても「可愛い！！日本人はいいわね。」と喜んでいただいた。市長からは「伝統文化の紹介をありがとう。」と

お礼の言葉をいただいて、とても嬉しく思った。異文化・異宗教であるからこそ、人間は理解し合い、交流を深めなければならないと思う。そのための絶対的な語学力を習得する必要性を強く感じている。もう一つ、アメリカ人はよく「I am an American」という言い回しを使う。彼らは自国に大きな愛情と誇りを持っている。アメリカの放つ大国感は一市民レベルの認識によるものなのだ。「I am a Japanese」私はそう胸を張って言うのだろうか。日本の風土・風習・歴史・伝統・政治経済・・・知らないことばかりである。まず自国を理解し、愛し、日本人としてのアイデンティティを確立しなければ、真の交流や親善はあり得ないのだと考えさせられた。

最後になりましたが、今回の派遣に際しお世話になった多くの方々に、心からのお礼をもって旅の報告とさせていただきます。ありがとうございます。

「世界って小さいね」 阪下 清乃さん

"Small world, isn't it?"をそのまま訳すと、「小さな世界ですね。」になるのですが、長い間会っていない友達とばったり出会ったときに、アメリカ人がよく使う慣用句です。先生は「奇遇だね！」と訳したけれど、私はあえて「世界って小さいね！」に訳したくなります。

アメリカで一週間のホームステイはまさに私に世界というものはいかに小さいものなのかを教えてくださいました。

少年野球チームの子どもたちや「おじさん」たちと別れなくなかった。ホストファミリーのママやクリスとバイバイを言うのが辛かった。サンマテオで何回も食事会を開いてくれて、一緒に大声でしゃべったり、笑ったりした名前も知らない親切で明るい仲間たちと、もっと話をしたかった。

ジョン・リー市長、あの白いひげを生やした優しいおじさん。シティホールに置き去りにされた私とリサちゃんを自分の車でみんながいるホテルまで送ってくれた。歓迎会に"Young ladies, special thank you"と言ってくれたのが嬉しかった。何回もお会いできたけど、いつも笑顔で「おじさん」と呼びたくなるように親切で接しやすい、しかもとてもカッコいい市長さんだよ。

それに、サンディさん(サンマテオ姉妹都市協会の会長)。空港まで送ってくれて、涙を抑えようと目を赤くしていた。最初に、サンフランシスコ空港まで迎えに来てくれて、私とリサちゃんを自分の車でピザ屋での歓迎会につれていってくれたのも彼女、何回も家に来て、いろいろ楽しくおしゃべりしたのも彼女。「あと2年したら、豊中で会おう」と約束したのを覚えているよ、サンディ、必ず会おうね！

そうだ、黒人の歴史を表しているという「I am a man」をプリントしたTシャツを着ていたダーレン。黒人と白人の話をいろいろしてくれた。日本語の発音もほかの人よりうまかった。9歳のときにちょっと勉強したことがあるからだって。ボウリングに連れて行って貰って、楽しいメンバーたちを紹介してくれた。ドライブにも連れて行って貰った。小高い丘から見たサンマテオ市の夜景は最高だった。家にも遊びに来てくれた。料理のうまいジェーンがイタリアンを準備してくれて、三つ年下のクリスも友達を呼んで、みんなでおしゃべりした。テレビを見て騒いだり、お

互いに日本語と英語を教えあったりして、今考えてみたら、何であんなに笑ったのか不思議なくらい楽しかった。

帰りたくなかった。本当のママ、ジェーンに「ありがとう」を口に出して言えなかった。悪いことをしたら、きびしく叱ってくれた。何時間もショッピングをしたら、「バカだね」と笑ってくれた。お腹がすいたら、私たちの大好物ピザやパスタを作ってくれ、甘えさせてくれた。本当のママだよ、ジェーンって呼んでたけど。

兄のクリスとはいつも口ゲンカばかりしてきた。仲があまりにも良かったから。彼女も紹介してもらって、すごく美人だったよ！誇りに思っている。ラッキーなやつだな・・・。

あの二人元気かな？ジャックとパンブキン。猫だけど、性格が全然違って、私とリサちゃんの変身みたい。仲は良かったけど。

トニー、フィリペ、ローラ、みんな家の近くの友達。町で買い物をしていたら、ばったり出会ったな。この町に来て、三日間も経ってないというのに、大声で名前を呼ばれたのはびっくりした。

あまり驚いたから、「Small world, isn't it?」も言えなかった・・・。

世界って本当に小さいものですね。距離も、時間も、国籍も、言葉の違いも、人種も、全然人々を隔てる物にはなれません。真心で接すれば、みんなやさしくて、最高な一人一人なのです。だから、私はサンディとの「No tears」を守ります。いつか絶対会えると信じているからです。会えなくても、幸せに楽しく毎日を過ごしていることを信じているからです。

アメリカに行く前に、私は姉妹都市は何のためにあるものなのかを考えたのですが、もう答えを見つけました！ この世界があまりにも小さくて、みんなが姉妹だからです。

ありがとうございますを言いたいのですが、もう言う必要がないかもしれません。「I love you!」を言いたいのです。みんな、大好きです。どこにいても、この小さな世界にいますから、きっと生活を楽しんでいるに違いないのです。

この豊中市に住んでいる人たちも同じです。いや、こんなに近くにいる人だから、もっと仲良くなれるはず。世界中の人たちも同じです。信じています。



ホームステイ先のファミリーと



サンマテオ市長を表敬訪問

豊中市少年野球チーム サンマテオ市訪問

2001年8月13日から23日まで、豊中市少年野球連盟（会長 北野 信義さん）の少年野球チームの一行がサンマテオ市を訪問、親善交流試合を行いました。1979年から相互訪問が始まって以来、6回目となるサンマテオ市。今回訪問されたのは、豊中市内の各少年野球チームから選抜された小学校6年生の20名です。初めての異国での試合で選手の皆さんも期待と不安で胸がいっぱいだったと思いますが、サンマテオ市の少年との親善交流は今後の人生にも大きな財産になったことでしょう。今回、その訪問記を豊中市少年野球連盟にお願いしました。

明るく優しい風の街

2001年夏、私達少年野球チームは、豊中・サンマテオ姉妹都市親善交流の任を担って、米国を訪問しました。日本では連日、まあ何とも言えない猛暑が続いていました。遠征に先立って練習をした原田少年野球場も入道雲に囲まれ、飛び鳥もなく、いくら掛け声を上げて、全ての物音を暑さが圧殺しているかのようでした。ところが、飛行機からロスアンゼルスへ降り立つや、その陽光や風や人々の、この上もない爽やかな歓迎を受けたのです。第一、入国の手続きにしたって、係員は私達一行がいかに野球仕立てという服装なのを見て、「おお、ベースボール、早く通りなさい。」と、面倒なチェックは殆ど受けませんでした。いかに野球少年に対する信頼が厚いか、です。さすがにこそって野球に親しむ国だと思われました。その、当の野球仲間が待つサンマテオ市へ入る前に、先ずは時差ぼけ回復のためと、翌日はDisneyランドでゆっくりしました。少年たちは、マッターホーン・ボブスレーやインディー・ジョーンズ・アドベンチャーなどで、時には恐怖を覚えつつも、その超高速のスリルを楽しみました。一泊して思いましたが、8月のカリフォルニアって、もう朝晩は半袖ではひんやりと感じるくらいです。

さて、その翌日空路で、サンノゼ空港へ到着、ここからサンマテオ入りです。私達は、サンマテオ市を訪れた単なるお客さんではなかったのです。懐かしいサンマテオ市へ「お帰りなさい」と言って迎えられた友人なのです。シティホール前には、サンマテオ市側の人々がみんな集まっておられました。ジョン市長さんを初めとする歓迎の挨拶を受けた後、ホストファミリーの紹介が和やかにあり、少年達は、それぞれの家庭へと向かいました。

【湯浅亮太君の作文から】

ホームステイのお宅について、すぐそこのお母さんが、僕たちの使っている部屋を教えてくださいました。そして、荷物を置くと、お母さんが「服、チェンジ」と言ったので、私服に着替えました。すると、「服、ここに入れて」と、段ボール箱を指してくれました。

【笠岡直史君の作文から】

ホームステイのお父さんから、「サンフランシスコ・ジャイアンツの試合を見に行きますか」と聞かれたので、見に行きました。（その夜、サンフランシスコ・ジャイアンツ対フロリダ・マリナーズの試合に連れて行ってもらった少年達は何組かありましたが、みんな、地元のジャイアンツを応援し、しかもサヨナラ勝ちをしたので、球場からの帰りの車中でも、その話で持ちきりだったようです。）

【河村章人君の作文から】

夜、セミの家にみんな来た。ラグビーボールの取り合いをした。アメリカチームは強かった。バーベキューパーティーがあった。鈴木君と佐伯君とで食べた。おいしかった。その後、みんなでボーリングに行った。

【北村剛君の作文から】

家には、卓球台とビリヤードの台が2つもありました。

いよいよ、交流試合が始まりました。少年達は、何といたって野球をするのが楽しみです。守備でも打撃でも、自分に関わる一球に神経をとがらせたり、興奮したりして、楽しめます。8月16日の第1戦は、薄暮のベレスフォード球場でした。町の人達の応援も賑やかです。鈴木友明君が好投し、敵失で得点を上げましたが、結果は仲良く3-3の引き分けでした。



試合開始前のプレゼント交換



数々のファインプレーを見せてくれました。

1分という結果でした。

サンマテオ市の少年達も大変明るく、社交的ではきはきとしていました。圧巻は、8月21日、ヴィラホテルでのさよならパーティーでした。豊中の少年達がホールのステージに揃って「ヤングマン」を歌うと、サンマテオ市側の大人も子どもも一斉にそこへ集まって、YMCAの身振り手振りよろしく踊ります。そして、豊中側からこの日に贈った祭りの法被をみんなまとって、すごいフィーバーでした。明日はお別れだというこの宵に、1週間の間に生まれ育った友情が、最高の熱気に燃え上がったのです。ジョン市長が漏らしました。「1週間って、速いな」と。そう、たちまちにして過ぎてしまった1週間でしたが、その間に少年たちの果たした親善交流は、見事な花を咲かせたといえます。少年達は、野球のゲームを通して、また、サンマテオの仲間と共に行った海やプール、バーベキューパーティーや大リーグの試合の観戦などの間に、自然に若い国際人としての成長をし、グローバルな視野での友情や平和や自然や環境のことなどについて、多くの貴重なことを学びました。作文の中にも、米国の少年達と友達になれたことをしみじみと喜ぶことなどが書かれています。同行した英語スピーチコンテストの代表、畑井梨沙子さん、阪下清乃さんも、その語学力を生かして、見事に少年達と現地の間をつなぎながら、自らの国際感覚をも高めました。それにしても、このように少年達を迎え、成長の機会を用意してくださったサンマテオ市の方々には、いくら感謝しても足りない思いでいっぱいです。

サンマテオ市は、美しい町です。町並みはきれいに整えられています。街路樹の緑は爽やかで、それに薄紫の百日紅の花がよく映え、清流の岸边ではサギやカモメが悠々と飛翔し、或いは穏やかに羽を休めています。球場にもホテルの庭にも、瞳を輝かせたリスが人怖じもせず走っています。青空にメタセコイアの木がそびえています。そして、出会う人々はみんな温かかったです。明日は帰る日という日の前日、

その夕方に珍しくパラッと雨を感じました。花壇の黄色いマリーゴールドや紫のサルビア、真っ赤なナデシコも、うっすらと露を受けて、一層可憐に見えました。サンマテオ市にも秋が訪れるのだなど、推移する季節の感じが、別れることへの思いと重なりました。

豊中・サンマテオ両市のチームと記念撮影

試合結果

	豊中市チーム	サンマテオ市チーム
第1試合(8/16)	3	3
第2試合(8/18)	9	0
第3試合(8/18)	11	0
第4試合(8/19)	5	1
第5試合(8/21)	6	9

3勝1敗1分で
豊中市チームの勝利



BASEBALL

この1年間のできごと



盆踊りにて(ブレイディさん一番左、山本さん右から2番目)

元サンマテオ市少年野球チームのトミー・ブレイディさんスーパーボウルのMVPに

2002年2月3日(アメリカ日時)、アメリカンフットボールのチャンピオンを決めるスーパーボウルが開催されましたが「ペイトリオッツ」のトミー・ブレイディさんが歴代最年少の24歳でMVP(最優秀選手)を獲得しました。

ブレイディさんはサンマテオ市出身で、1990年にサンマテオ市少年野球訪問団の一員として来豊、ピッチャーとして大活躍しました。また、父親のトーマス・ブレイディさんは元サンマテ

オ姉妹都市協会の会長として、豊中市との交流に尽力いただきました。

来豊当時、豊中市チームの一員として、ブレイディさんのサンマテオチームと対戦し、また、ブレイディさんのホームステイを受け入れた東豊中町の山本英史さんは「豊中市少年野球連盟からの電話で彼のMVP獲得のニュースを初めて知りました。アメリカンフットボールをやっているとは知らなかったの、ものすごくびっくりしました。」と驚きを隠せない様子でした。

また、ホームステイした当時のブレイディさんの姿について、「ピッチャーで四番打者。とび抜けて大きく、まるで高校生みたいでした。家ではテレビゲームが大好きな子どもで、いつもみんなと夜遅くまで熱中し、何をやっても口癖のように「I'm a champion!」と言っていたのを覚えています。天真爛漫な人見知りしない子で、礼儀正しくいつも明るい子でしたね。」と、山本さんのご家族の方も、当時のブレイディさんの姿を昨日のこのように思い出されていました。そして、「またお会いしたいですね。」と話されていました。

今後のブレイディさんの一層のご活躍をお祈りします。



山本さんの家で夕食

サンマテオ市の新市長 スー・レンパートさんに

2001年12月5日の定例会議において、サンマテオ市議会の新人事が決まり、新しい市長にはスー・レンパートさんが選出されました。市長以外の新人事は次の通りです。

副市長 クLEAR・マックさん 議員 ジャン・エプスタインさん
議員 キャロル・グルームさん 議員 ジョン・リーさん

一色貞輝豊中市長は、新市長のスー・レンパートさんに祝電をお送りしました。



サンマテオ市日本庭園35周年を迎える



2001年8月にサンマテオ市の日本庭園が開園35周年を迎えました。記念式典では、ちょうど訪問していた豊中市の親善使節や少年野球チーム親善訪問団の皆さんも出席されました。また、豊中・サンマテオ姉妹都市協会からも記念品を贈りました。日本庭園には35年前の開園を記念して豊中市から贈られた灯ろうが庭園の一画を飾っており、訪れる人の心を和やかにさせてくれています。